横浜地方法務局長賞（最優秀賞）

作品タイトル　「大丈夫？」の返事は　「大丈夫」じゃなくていいんだよ

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　榎本　琹子



作品について伝えたいこと

私はいつも「大丈夫？」と聞かれると、大丈夫ではないのに、大丈夫と返していました。でもある日、大丈夫じゃない時は大丈夫って返さなくていいんだよと言われ、私はとても心がすくわれました。みんなにもこの言葉を伝えたい。大丈夫じゃないと言えなくて苦しんでいる人達に届いてほしい、という思いを込め、この言葉にしました。背景はすべてつつみこんでくれるようなあたたかい絵にしたいと思い、どこまでも続く地平線と、夕やけを描きました。

神奈川県人権擁護委員連合会長賞（優秀賞）

作品タイトル　自分らしく生きる権利

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　今井　咲良



作品について伝えたいこと

真ん中に中学生の女の子と、まわりに自分の好きなものを描いて、それに向かって手をのばすような構図にしました。世界中の人が自分らしく生きられたら良いと思い、地球や世界の人々を描きました。

神奈川県人権擁護委員連合会長賞（優秀賞）

作品タイトル　先入観で　歪んでない？

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　大島　環



作品について伝えたいこと

勝手なイメージや先入観によって、本来そこにあるものに気づけず物事を歪んで見てしまうのはとてももったいないことだと思います。「この人は怖い人だ。」「これは美味しくなさそうだ。」と思い込むと、本当は優しかったり美味しかったりといった確かな事実に目を向けられなくなってしまいます。だから、新たな気づきや出会いを奪って自分の可能性を狭めるようなことはせず、目の前にあるものをまっすぐ見てほしいのです。

神奈川県人権擁護委員連合会長賞（優秀賞）

作品タイトル　だから？

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　有田　伊織



作品について伝えたいこと

黒板にチョークで書かれた「〇〇だから」という言葉は、実際に僕が言われた言葉、そして僕が言ったこともある言葉です。
それらを黒板消しで消した上に、「だから？」というコピーを乗せました。
「だから？」と問われて、理由を答えられるものなのか、一度立ち止まって考えるきっかけに、このポスターがなれば、と思います。
悪意がないまま、誰かを傷付けていないか。或いは、そんな必要もないのに自分を追い詰めていないか。「偏見や思い込みをなくそう」というメッセージを込めました。
全体をクレヨンで描くことでチョーク画のように表現し、コピーのみ、ペンで描いたものにして、メッセージが強く伝わるように工夫しました。

神奈川新聞社賞

作品タイトル　個性があるから世界は成り立つ

学校・学年　横浜市立下瀬谷中学校　2年　　氏名　宮崎　縁



作品について伝えたいこと

人種や性別、生活習慣や性格の違いをお互いに尊重しあって生きていけば、世界から人権を蹂躙する戦争もなくなるだろうし、みんな笑顔で平和に生きることが可能だと思います。

ｔｖｋかながわMIRAI賞

作品タイトル　その一歩が、支えになる

学校・学年　川崎市立橘中学校　1年　　氏名　竹内　仁



作品について伝えたいこと

困っている人や落ち込んでいる人がいた時、一歩足を踏み出して、手を差し伸べるのは少し勇気がいる。
でも、自分の一歩が誰かを救うきっかけになるかもしれない。
敵・味方関係なく、その一歩を踏み出せる人になりたいし、そんな社会になってほしいと思ってこの作品を描いた。

アール・エフ・ラジオ日本（にっぽん）賞

作品タイトル　平和に生きる事は当たり前じゃないの？

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　井上　水優



作品について伝えたいこと

日本で悲しい戦争があったことは知っていましたが、日々の生活では、日本人であっても他人事のように感じて過ごしていました。ですが、夏休みの期間に広島の原爆ドームや資料館を訪れた時に、戦争の過酷さを目の当たりにし、戦争で亡くなった方たちの人権について深く考えました。今、私たちが平和に生きていることが当たり前だと思っていましたが、実はちがうのか、ということをテーマにして描きました。

D－YCAP（ダイバーシティ横浜市民アートプランナー）賞

作品タイトル　あなただけの星は　すぐそばにある

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　丸岡　結芽



作品について伝えたいこと

周りと比べて、「自分にはない」とか「あれがほしい」と思ったりするけれど、意外と自分だけの星、輝きっていうのはすぐそばにあるし、それをみつけくれている人もいるから、大丈夫と思ってほしいと思いました。上の天の川は他の人の星だったり輝きで、それが映っている水面には、それをそのまま反射させるのではなく、４～５人ぐらいにアンケート「あなたにとっての星は？」というのをきいて返ってきた答えをハイライトとしてしのばせてます。

奨励賞

作品タイトル　心が笑えば世界も笑う

学校・学年　川崎市立橘中学校　1年　　氏名　佐渡　りりか



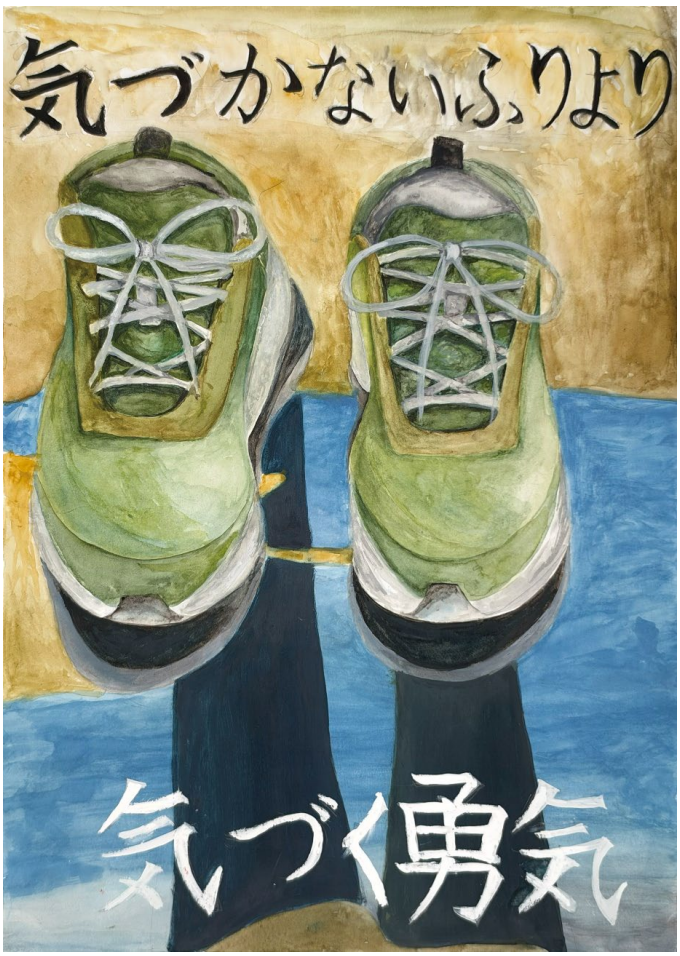
作品について伝えたいこと

私は笑顔でいると自分だけじゃなくて、周りの人も明るい気持ちになれると思います。だから、一人一人が笑顔で過ごせたら、世界も少しずつ明るくなるんじゃないかなと思って、この言葉を選びました。みんなが笑顔でいられる世界になってほしいという思いを込めました。

奨励賞

作品タイトル　気づかないふりより気づく勇気

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　藤巻　乃愛



作品について伝えたいこと

見てみぬふりをして、その人自身をいないものだと認識してはいけない。あなたが見てないだけでずっとその人は存在している。無視することは簡単だが、それは人権を否定しているのと一緒ではないか。

佳作

作品タイトル　もらった優しさ今度はだれかに

学校・学年　小田原市立千代中学校　3年　　氏名　丸山　実温



作品について伝えたいこと

誰かに優しくしてもらった時、「ありがとう」という気持ちと同時に、「お返しに何かできることはあるかな？」と考えることがあります。その場で返すことはなかなかできないけれど、困っている人がいる時に自分ができることを探して何か役に立てた時、「あの時のお返しになったかな」と思うことがあります。みんなの心の中にもそんな思いがあると思い、お互いの優しさを返し合う気持ちを表現しました。

佳作

作品タイトル　権利は平等

学校・学年　川崎市立橘中学校　1年　　氏名　丸尾　理紗子



作品について伝えたいこと

「権利」「人権」とは、生まれた時からすべての人が持っている、人間らしく生きるための特別な権利です。
ハンデを持っているからダメということがないように、どんな人でも平等であるという思いを絵に描きました。

佳作

作品タイトル　一人一人の言葉で世界はもっと優しくなる

学校・学年　川崎市立橘中学校　1年　　氏名　宮川　梢



作品について伝えたいこと

１人１人が相手を思った言葉をつかい、大切にすれば、少しずつ広がっていき、やがて世界中の人達の心に花がさいて、あたたかく、優しい未来が来る。という思いをこめ、この絵と言葉で伝えたいと思いました。

佳作

作品タイトル　当たり前にありがとう

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　大橋　芽生



作品について伝えたいこと

日々のくらしは誰かの支えがあって成り立っている。毎日洗濯をしてくれているお母さんの姿を通して、当たり前だと思っていた日常の大切さに気がついてほしい。また「ありがとう」の気持ちを忘れないでほしい。

佳作

作品タイトル　ちがうからすてき

学校・学年　川崎市立橘中学校　2年　　氏名　瀬戸口 玲奈



作品について伝えたいこと

皆んな花を持っているけど、花がひとつひとつ違うように、人にも違いがあり、個性があるということを表現しました。
背景が空なのは、皆んな違くても同じ空の下にいるということを表現したかったからです。

佳作

作品タイトル　その言葉　どう伝わるか考えて

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　加藤　一葉



作品について伝えたいこと

インターネット上での言葉の伝わり方及び「言葉は刃物」をテーマにポスターを描きました。一方が面白がって言った言葉が相手にとっては心を傷つけてしまうことになることを理解してSNSを使ってほしいという思いを込めました。傷つけている側にとってはただの「言葉」であるため気軽に送れてしまうが、その「言葉」はより人を傷つけられてしまうと感じました。傷つけている側には何を言っても伝わらないため、送られている文字をばけさせる工夫にしました。より刃物を目立たせるよう、そしてお互いの考えの違いを強調させるように場所で明暗を分けて工夫しました。

佳作

作品タイトル　匿名のとき貴方は般若？小面？

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　髙橋　泉織



作品について伝えたいこと

匿名で意見を主張できる現代で、匿名のときだけ人を責めたり侮辱し、現実で人が目の前にいるときは良い顔を見せている人はたくさんいる。意識していなくても、匿名になっただけで普段はブレーキをかけられているのにそれがゆるくなっている人もいると思う。自分もそうなっていないか、他の人を傷つけてしまっていないか見つめなおしてほしい。というメッセージをこめた。対比が分かりやすく、自分でつけはずしができる能面の小面と般若を使って表現したところが見た人に分かりやすくメッセージを伝えるためにした工夫のポイント。

佳作

作品タイトル　私ラシク

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　町田　菜々



作品について伝えたいこと

私たちのまわりにはさまざまな個性があふれています。鮮やかな色やさまざまな形を組み合わせ、誰かの「個性」を表現しています。それぞれバラバラな個性だけど、お互いを認め合って1つの世界をつくっているのを表しています。また実は右下に「私ラシク」という言葉を隠しています。
他人の「自分らしさ」も自分の「自分らしさ」と同じくらい大切にしてほしいという思いをこめました。

佳作

作品タイトル　自分を否定しないで

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　麦田　遙



作品について伝えたいこと

自分が映る鏡が今まで自分を否定してきてしまって割れているというのを表現しました。自分も今までネガティブ思考で自分のことを否定してきてばっかりだったんですけど友達や周りの人のおかげで自分を否定してもいいことはないと気づけたので、みなさんにも気づいてほしくてこのような絵にしました。

佳作

作品タイトル　溜め込まないで　その気持ち

学校・学年　川崎市立橘中学校　3年　　氏名　永井　翠泉



作品について伝えたいこと

自分の気持ちを心に溜め込みすぎず、手遅れになる前に、誰かに相談することが大切だという思いをこめてこの作品を作りました。そして、一人で抱え込まずに周りの人を頼る勇気を持ってほしいです。